

平成 29 年度 税関ポスター

愛知県立常滑高等学校
クリエイティブデザイン科
3年生制作



私は税関の方が麻薬や金などの密輸を取り締まっているのは知っていましたが、その他に偽ブランドやコピー商品などの取り締まりをしていることは知りませんでした。旅行に行ったりする際、「知らなかった」で済ませないように、色々な人にもっと禁止・規制している偽ブランドやコピー商品のことを知ってもらいたいので、このポスターを制作しました。軽い気持ちで買ったモノが取り締まり対象であるかもしれない、それが重い罪になるかもしれないということを伝えたいと思います。キャッチコピーと絵がそれぞれ対称になるようにイラストを描きました。



私は、密輸について調べていくうちに、薬物は様々な方法で密輸を企てられていると感じました。税関は、そんな細工も許さない、隠させない、という思いで働いており、人体に薬物を取り込み、密輸を図った人物の取り締まりなど、実際にも厳重に密輸を取り締まっていることを知りました。そこで私は、甘い考えで軽率な行動をすると、苦しい思いをし、自分で自分の首を絞めることになると感じました。キャッチコピーの「甘いミツユ 苦いケイバツ」は、甘い考えというミツを運ぶミツバチと、犯罪という名の毒を持ったスズメバチを連想したものです。図柄では、甘い考えを持ち密輸を図りながらも、一見普通に見える人間を例えたミツバチと、税関により罪を取り締まりされ、苦しい思いをして涙を流す人間を例えたスズメバチが描かれています。



日本でたくさんの輸入品がある中で、薬物や銃器などの禁止・規制されている密輸品を持ち込もうとしている人を、厳重な警備で絶対に見つけ出すために税関の方が動いているということを知ってもらうため、ポスターを制作しました。海上パトロール、大型X線検査、麻薬探知犬など様々な警備で日本の社会を守っているということ、また重い刑罰があることを伝えたいと思いました。ポスターには、薬物を持ち込もうとした人を、税関の方が見つけ出すところを描きました。



税関とは何をしているのか、完璧な答えを言える人は少ないのではないかと最近問題になっている密輸について取り上げることに、国民の興味・関心を持ってもらい、今後密輸が無くなるような環境をつくりたいと思い、ポスターを制作しました。税関の始まりは安政6年に設けられた運上所から始まっているという歴史から、浮世絵風のイラストに仕上げることにし、日本らしさを表現しました。また、ワシントン条約により輸出入が禁止・規制されている動植物の中でも広く知られているトラやワニ、象牙などをメインにすることにより、どんな年代の方でも分かりやすく、伝わりやすいポスターに出来たと思います。



密輸と言えば麻薬がすぐに出てくると思います。しかし実際に密輸されているものは、麻薬だけではなく、金、銃器も多くあるということを知ってもらうために、この二つをテーマに描きました。そして、税関の方たちが365日、日本の安心・安全のためにそういった密輸が行われないように務めているということを伝えるため、税関の方を真ん中に大きく描きました。金、銃器を人の前に置き、手を前に出すことで、きちんと「密輸 STOP」の意味を込めることができました。



私たちが危険にさらしたり、持ち込んだ人の人生も狂わせてしまったりする麻薬や覚せい剤、MDMAなどの薬物を、国内に持ち込まないように毎日、港と空港を監視している税関をもっと多くの人に知ってもらいたいと思います。そして税関の働きで国内の貿易の安全は守られているということを伝えたいと思いました。外からやってくる薬物という危険から私たちを守ってくれる白い手、その手の中で暮らす私たちを描きました。白い手は税関を表し、私たちの安全は知らない間に守られているということをわかりやすく表現しました。



国外から様々な種類の薬物が様々な方法で密輸されています。その薬物を少量でも何処にどんな方法で隠しても、税関が確実に見つけ、許さない姿勢を、カスタム君を用いて表現しました。また小さな薬物であっても重い罪になるという事を伝えようと思い、秤や鉄球で罪の重さを表現し、カスタム君を大きく厳しい表情にしました。それと対照的に少年は少し小さめに情けなく泣いている表情にしました。それらの要素から、見た人に薬物の密輸に対する罪の意識を持たせられるポスターに出来たのではないかと思います。



金の密輸は年々増加している犯罪です。犯罪意識が薄く、アルバイト感覚でやってしまう金の密輸がれっきとした犯罪であることを伝えるために、ポスターを制作しました。キャッチコピーは、金の密輸が犯罪であることを知ってほしいという思いで作りました。分かりやすいポスターにするため絵柄を単純化し、金が目立つように工夫しました。このポスターを通して少しでも金の密輸への意識が変わり、少しでも密輸が減ってほしいと思います。



近年では金の密輸が増えてきており、「旅行代を払うよ」などの甘い言葉に誘われて軽い気持ちで手伝いをしてしまっている人がいて、さらに罪の意識があまりない人も多いと聞きました。密輸を手伝ってしまう人が少しでも減ってほしいと考え、ポスターを制作しました。キャッチコピーには金を密輸してしまうことはいけないことだという意味を込めました。ポスターには金の延べ棒を軽々しく持っている手と、その手を逃すまいとしっかり手錠がかけられている様子を描きました。



「ねえ、今、何持ってる？」と二匹の犬が男性に尋ねています。この二匹の犬は麻薬探知犬で、男性から麻薬のにおいを感じたのです。このポスターは、パッと見ただけでは犬が男性の何を疑っているのかはわかりませんが、よく見ると背景には麻薬が描かれています。麻薬探知犬は、麻薬を見えないところに隠そうが、ほんの数グラムだけ持ち込もうが、簡単に見つけ出してしまいます。そんな麻薬探知犬の、麻薬を絶対に通さない優れた能力を伝えたいと思い制作しました。



コピー商品の持ち込み差止件数は多く、コピー商品を日本に持ち込めないことを知らない人もたくさんいると思います。国外で商品を購入するときにはコピー商品でないか判断してから購入してほしい、ということをもポスターで伝えたいと思いました。ポスターには、コピー商品の持ち込みされる数が多いバッグを選び、たくさん配置しました。その中で一つだけを目立たせ、そのバッグをコピー商品と見立てて、コピー商品は身近に潜んでいるということを示しました。



近年、金の密輸が増加しているという話を税関の方に聞きました。ニュースでもそれらについて報道されているのを見かけます。麻薬や銃の密輸ほど犯罪意識が少ないというのが理由だそうです。ポスターでは金の密輸は犯罪ということをもパッと見たとき分かるように目立たせました。背景を暗くし、手錠をした人の手を大きく入れることで罪の重さを表現しました。ポスターを見て金の密輸は犯罪、ということをも多くの人に知ってもらい、罪を犯す人が減ってほしいと思います。